

ラオス学校建設支援活動で得たもの



新校舎から笑顔で駆け出してくる子どもたち

「企業は何のために存在するのか」。お客様により良い価値をよりお値打ちに提供するため、納税を通じて国家に貢献するため、利益を出し株主に持続的に配当するため、従業員の文化的な生活のためなどさまざまな考え方があるが、「事業を通じて得た利益を、社会のために役立つため」という答えに私がたどり着いたのはそう昔ではない。社会に役立つという観点からは、企業は、利益の額ではなく利益の用途が問われるのではない。私の所属する「イオン1%クラブ」は、こうした背景で1989年に設立された。

イオン1%クラブ、3つの事業

イオン1%クラブは、「平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念の下に設立され、主に「環境保全」「地域の文化・社会の振興」「国際的な文化・人材交流、人材育成」という3つの事業を柱に活動している。その活動の原資は、グループ企業の税引き前利益の1%が充てられている。

その内の「国際的な文化・人材交流、人材育成」分野の「ティーンエイジ・アンバサダー」事業では、世界各国と日本の高校生同士の相互交流によ

イオン1%クラブ

事務局長 友村自生

り、多感な時に相手国での授業体験、ホームステイを通じ、多様な価値観、文化に触れ、互いを認め、理解し合う場を提供している。その一方、世界では、自国語の言葉を習う場を与えられず、今の日本からは想像できない劣悪な環境で勉強している子どもたちも多い。その彼らに、何かできないだろうかという想いから、2001年、当クラブの「学校建設支援事業」は始まった。

お客様とともにこなう支援活動

その始まりは、ある個人がカンボジアでおこなっている、学校建設を資金面で応援することであったが、もっと「イオンらしいやり方」と考えた結果、小売業の特徴を活かし、「ご来店されたお客様とともにこなう」ことに行き着いた。

そのスキームは、まずイオンが全国店舗でお客様から募金を募り、この総額とほぼ同額を当クラブが拠出し、ユニセフ協会も応分の拠出をする。



ポスターなどで来店されたお客様に募金を呼びかけ

翌春には建設された学校で開校式をおこない、日本からの参加者と現地の子どもたちやその親たちが交流する。こうして2008年までにカンボジアで149校、ネパールで57校、ラオスで70校の小学校建設を支援してきた。私がこの仕事について初めて迎えた2009年春は、ラオスで累計100校目が完成し、その内の1校で開校式を迎えた。

ラオスの学校と子どもたち

多くのラオスの学校は、柱の上に屋根をつけた学校が多かった。床は土のままの地面で壁もない。使っている教材も日本からは想像もできないほどの状況の下、子どもたちは学んでいた。

開校式の当日は、学校周辺の住民の多くが校門手前から列をつくり、日本から参加した人々を、それぞれが手づくりのレイを用意し迎えてくれた。式典にはラオスの教育大臣や、現地州知事も駆け付けた。主だった方々のスピーチや祝辞が終わると、日本からボランティア参加した由紀さおりさん、安田祥子さんご姉妹の童謡ミニコンサートが始まった。子どもたち生徒も一緒に歌った。日本の童謡「赤とんぼ」「幸せなら手をたたこう」をラオス語で子どもたちと一緒に歌いたいというお二人の希望により、事前に子どもたちも練習した。最初はなかなか調子が合わなかったが、それでもお二人が子どもたちにマイクを向けると、子



支援前の校舎と旧教室で学ぶ子どもたち



新校庭で子どもたちと交流する由紀さん、安田さん

どもたちなりに一所懸命に声を出していた。

その後、日本からの参加者たちは1年生から5年生（ラオスの小学校は5年まで）の教室に分かれ子どもたちと交流をした。歌の教室、お絵かきの教室、お手玉の教室、そして校庭での日本のリボンやフープなどの新体操教室などを通じ、満面の笑みを浮かべた生徒たちと存分に時をすごした。

子どもたちに気付かされたこと

日本から参加した子どもの1人が、「日本で生まれた私は恵まれている」と開校式からの帰りに言っていた。私は開校式で将来の夢を聞いたラオスの子どもたちの返事を思いだした。彼らは、日本の子どもたちが失いかけている輝いた眼と笑顔で、学校でしっかり勉強し、「親を楽にしたい」「国のために働きたい」「子どもたちに勉強を教えたい」と答えたのだ。

物質的な豊かさに恵まれながら、何かと不満を感じている生徒が多い日本と、劣悪な環境下でも、子どもたちが一所懸命に勉強することを通じて、その夢を笑顔で語るラオス。私は考えずにはいられなかった。本当の幸せって、豊かさって何なのだろうかと。

◆イオン1%クラブ：

<http://www.aeon.info/1p/top.html>

◆イオングループ社会貢献の取り組み：

<http://www.aeon.info/environment/social/>